

「東京都在宅療養推進会議の運営に係る細目」第4に基づき、ACP推進事業検討部会を設置

設置目的

都民が希望する医療・ケアを受けることができるよう、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に関する都民への普及啓発と医療・介護関係者に対する実践力の向上のための研修等の実施について検討を行う。

取組内容

- ① ACP普及啓発小冊子の作成
都民がACPについて知り、家族や医療・介護関係者とともに、自らが希望する医療・ケアについて考えることができるようになる小冊子を作成
- ② 医療・介護関係者向け研修カリキュラムの策定
ACPの基礎知識を身に着けるとともに、複数の事例からACPのプロセスを理解し、実際の現場での患者や家族への支援につなげられるようにする研修カリキュラムを策定

開催状況

- 令和2年8月に設置
9月以降月1回ペースで5回開催

今後の開催スケジュール

- 研修内容の振り返り、必要に応じたカリキュラム等の見直し検討

委員構成

◎…部会長

	所属	氏名
在宅医	医療法人社団つくし会 理事長 東京都在宅療養推進会議 会長	◎新田 國夫
学識経験者	国際医療福祉大学大学院 教授	石山 麗子
	中京大学法科大学院 教授	稲葉 一人
東京都医師会	東京都医師会 理事、西田医院 院長	西田 伸一
病院医師	順天堂大学医学部・大学院医学研究科 先任准教授	川崎 志保理
訪問看護師	認定NPO法人マギーズ東京 センター 長	秋山 正子
住民代表	ジャーナリスト	迫田 朋子
区市町村/ 地域包括支援 センター	国立市役所健康福祉部 地域包括ケア 推進担当課長	葛原 千恵子

都民向けACP普及啓発小冊子「わたしの思い手帳」について

1 制作目的

- 住み慣れた暮らしの場において最期まで自分らしく暮らし続けるため、都民が自らの希望する医療・ケアを受けることができるよう、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に関する都民への普及啓発と医療・介護関係の対応力向上に向けた支援が重要
- 一方で、「医療に関する都民意識調査」（令和2年3月）によれば、ACPに関して「具体的にどんな話をしてもよいかわからない」（25.1%）、「話し合いのタイミングがわからない」（32.9%）と回答した都民が多いことから、ACPの重要性を啓発するだけでなく、分かりやすい事例などを用いて、どのようなことを話し合うことが必要か等を具体的に伝え、理解してもらう必要があるのではないか

都民がACPについて知ることができ、自らが希望する医療・介護について考えるきっかけとなるとともに、ACPに取り組むに当たって参考となり、家族や大切な人、医療・介護関係者等とともに話し合い共有する際に活用できる小冊子を作成

2 小冊子概要

■タイトル 「わたしの思い手帳」

■想定している活用場面

(1) 病院、在宅療養の場での活用

病院の待合室や資料コーナーなど、患者や家族が自由に手に取れる場所に設置。
病院の医師や看護師、在宅医や訪問看護師、ケアマネジャー等が、患者・家族に説明を加えながら渡し、考えることを促したり、相談に乗ったりする。

(2) 市民向け講演会や勉強会での活用

市民がその場で考えたり、参加者らと話し合ったりできる。

■配布予定

令和3年3月より順次、都内の病院・診療所、介護事業所、医療・介護関係団体、区市町村等へ配布予定

■都公式HP（3月公開予定）

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryu/iryu_hoken/zaitakuryouyou/acp_booklet.html



都民向けACP普及啓発小冊子「わたしの思い手帳」について

(参考) 冊子ページ紹介

パート① 導入



自分事として自身や家族の希望する医療や介護について考えるきっかけとなるために、ACPのイメージをつかんでもらうとともに、小冊子を読み進めたいという期待感を持ってもらう。

パート③ 具体的なやり方、知っておきたい医療・介護用語



基本的なACPの流れや考えておく必要のある事柄を示すとともに、考える際に留意すべき事項や参考となる情報を記載。実際にACPに取り組む際に活用できる。

パート② 事例紹介



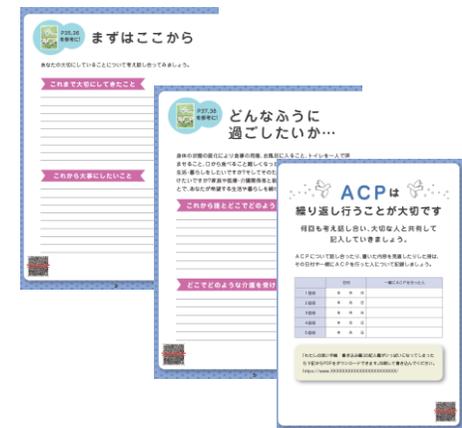
事例の内容を自分に重ねて、より具体的に考えてもらうきっかけとなるために、ACPを行う中でよくある事例を複数紹介。ACPの重要性や取組方法が理解できる。

パート④ Q&A



ACPに関して誤解が生じやすい点について、正しい理解を促す。

【別冊】書きこみシート



アドバンス・ケア・プランニング取組推進研修 ～本人の意思に沿った医療・介護の意思決定支援を考える～

【報告事項】
資料5 ③

目的

本人の意思を尊重した医療・介護を提供するためには、患者本人・家族が希望する医療や介護について考えやすいタイミングやシチュエーションを見つけ、適切な話し合いを重ねていくACP（アドバンス・ケア・プランニング）に基づいた意思決定支援を行うことが重要。本研修を通じて、ACPについて理解を深め、具体的な事例を用いてACPの実践を学ぶ。

令和2年度 カリキュラム

(1) ACPに関する基礎知識

	主な内容	講師(敬称略)
75分	① なぜACPなのかー現実の必要性 ② ACPとはなにかーうまくいかなかった理由 ③ 法的な観点から ④ 倫理的な観点から ⑤ ACPに関する在宅療養推進会議の考え方・小冊子の考えの流れ ⑥ 気をつけたいことと、重要なこと	稲葉 一人 (中京大学法務総合教育研究機構 教授)

(2) ACPの事例紹介、ディスカッション

	主な内容	講師(敬称略)
80分	複数の事例により具体的なACPの取り組み方を紹介 ■ 2事例 ①認知症のある方のACP ②病院内でのACP 事例紹介の後、講師によるディスカッション、参加者からの質疑応答	<座長・講師>新田 國夫 <講師>稲葉 一人、川崎 志保理、西田 伸一 <ゲスト>秋山 正子、石山 麗子、迫田 朋子
5分	全体総括	新田 國夫

開催予定

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン形式にて開催

- (1) : 専用サイトにて、講義動画を配信
- (2) : Web会議システムを使用し、オンライン形式で開催
(R3年2月28日(日) 14:30~)

申込状況

総計：1,211人

- 【内訳】 医師：226人、看護師：490人
- ケアマネジャー：197人、介護職：18人
- 行政：80人、その他：200人